

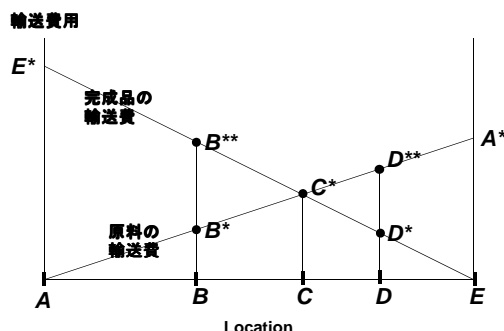
『都市の経済学 小テスト No. 2』 (1問1点、20点満点)

以下の各問に答えよ。ただし、解答はマークシート方式となっているので、問題の解答番号に入る数値または選択肢番号を解答用紙（マークシート）に解答すること。

※ で囲まれた数字は解答番号を示す。○で囲まれた数字は選択肢番号を示す。

1. The one input, the one market model について

ある企業は、原料を入手し、加工して、完成品を生産している。この企業は、図の点 A で原料を入手することができ、点 E で完成品を売却することが出来る。図の AA* は原料を輸送するときの費用曲線を表し、E*E は完成品を輸送するときの費用曲線を表す。



1. 1. この企業が点 D に立地し、原料を加工した場合、完成品の輸送費用はいくらになるか？ 1 (①DD*、②DD**、③D*D**、④2DD*、⑤その他) **1**
1. 2. この企業が点 B に立地し、原料を加工した場合、原料の輸送費用はいくらになるか？ 2 (①BB*、②BB**、③B*B**、④2BB*、⑤その他) **1**
1. 3. この企業が点 C に立地し、原料を加工した場合、総輸送費用はいくらになるか？ 3 (①CC*、②2CC*、③CD、④2CD、⑤その他) **2**
1. 4. この企業が利用する原料の重さと完成品の重さを比較すると 4 (①原料が重い、②完成品が重い、③同じ重さ、④不明) **2**
1. 5. この企業は費用を最小化するためにはどこに立地すればよいか？ 5 (① 点 A、② 点 B、③ 点 C、④ 点 D、⑤ 点 E、⑥ その他) **5**

2. 比較優位について

車の生産が得意だが石油のあまり取れない A 国と、車の生産は不得意だが石油の埋蔵量は豊富な B 国があるとする。それぞれの国における労働力を 1 単位ずつ利用した場合の、車と石油の生産量は表の通りである。以下の問いに答えよ。なお、答えは以下の選択肢から選ぶこと。

【選択肢】 (① 0.01、② 0.02、③ 0.05、④ 10、⑤ 20、⑥ 50、⑦ A 国、⑧ B 国、⑨ その他)

表. 労働力 1 単位あたりの生産量

	A 国	B 国
車	100 台	10 台
石油	2 キロリットル	200 キロリットル

- 2.1. それぞれの国において、車 1 台を生産するためにかかる費用は、石油で計った機会費用で計算するといくらになるか？ A 国 (6**2**) キロリットル、B 国 (7**5**) キロリットル
- 2.2. それぞれの国において、石油 1 キロリットルを生産するためにかかる費用は、車で計った機会費用で計算するといくらになるか？ A 国 (8**6**) 台、B 国 (9**3**) 台
- 2.3. 車の生産に比較優位があるのはどちらの国か？ (10**7**)

3. 交易の利益について

上記のそれぞれの国にある総労働力が10単位あるとする。A国で車と石油の生産に配分される労働力が6:4、B国で車と石油の生産に配分される労働力が3:7であった。それぞれの国における生産量は表2の通りである。以下の問いに答えよ。なお、答えは以下の選択肢から選ぶこと。

表2.各国の生産量（労働力10単位を全て生産に利用）

	A国	B国
車	600台	30台
石油	8キロリットル	1400キロリットル

- 3.1. A国では比較優位のある財の生産に労働力の70%を利用することにし、B国では比較優位のある財の生産に労働力の80%を利用することとした。残りの労働力は他方の財の生産に利用する。このとき、各国のそれぞれの財の生産量はどのようになるか。変化後の生産量について答えよ。なお、答えは以下の選択肢から選ぶこと。

【選択肢】(① 6、② 14、③ 20、④ 80、⑤ 300、⑥ 400、⑦ 700、⑧ 1600、⑨ その他)

【車】: A国 () 台、B国 () 台

【石油】: A国 () キロリットル、B国 () キロリットル

- 3.2. 労働力を変化させた後、お互いに交易を行うこととなった。交換比率は車1台に対して、石油2キロリットルとする。なお、A国は労働力を変化させることで増産した全ての財をB国との交易に利用する。この条件で交易を行った場合、A国とB国における最終的な車と石油の保有量はいくらか。ただし、交易の際に輸送費などのコストはかからないとする。なお、答えは以下の選択肢から選ぶこと。

【選択肢】(① 8、② 77、③ 120、④ 206、⑤ 303、⑥ 406、⑦ 600、⑧ 800、⑨ その他)

【車】: A国 () 台、B国 () 台

【石油】: A国 () キロリットル、B国 () キロリットル

- 3.3. この結果、比較優位のある財の生産を増加させ、さらに交易を行うと、両国における最終的な財の保有量は (①増加する、②減少する、③変化しない、④定まらない、⑤その他)。それぞれの国が利用する総労働力は (①増加する、②減少する、③変化しない、④定まらない、⑤その他) ことから、交易を行うことが合理的であることがわかる。